陶土屋さんからのニュースレター

磁器 シキよまんば！

［早くよまなきゃ！］

発行部数998部

2022.06 30

巻頭のあいさつ

個展に伺いました♪

前田さまと

３月５日、銀座和光で開催された前田正博さまの色絵磁器展にお邪魔してきました。これまで何度も個展の案内をいただきながら、なかなか行くことができず、今回ようやく実現しました。

会場には「作陶 50 年 明るく楽しく美しく」と題し、大作から小物まで約 80 点もの作品が並べてありました。また、これまでの作風の変遷も紹介されており、とても興味深く拝見しました。

色絵磁器の名の通り、赤・青・緑・金・銀の組み合わせにより、重厚な作品から軽快なものまで、さまざまな表現がなされています。なんと高台部分も色が着けてあります！　さらには組み合わされる緻密な格子模様。シャープなものから、ぼかしたものまで、使い分けで印象が全く違います。

マスキングテープを貼る作業と彩色の繰り返しは、気が遠くなる作業のように思うのですが、ご本人にとってはそうでもないとのこと。これも驚きです。

前田さまには丸 12 年当社の粘土をお使いいただいていますが、お会いするのは笠間陶芸大学校の開校式以来６年ぶり２度目。今回はゆっくりお話を伺うことができ、楽しい時間があっという間に過ぎてしまいました。

帰りにはパナソニック汐留美術館での「未来へつなぐ陶芸 伝統工芸のチカラ展」に寄りました。こちらにも前田さまの作品があり、その他にも当社のお客さま十数名の方の作品を観ることが出来ました。

今後も個展の案内などありましたら是非お送りください！

渕野直幸

前田 正博さまの作品を一部ご紹介♪

ウクライナにカオリンあります

先日、イメリス社の担当の方と話す機会があり、そのときに初めて知りました。なんと、ウクライナにカオリン鉱山があるそうです！鉄鉱石や石炭などの鉱石資源のイメージしかなかった私にとって世の中まだまだ知らないことだらけです。

しかも、鉱山はキーウ（キエフ）から南へ２００kmほどのところと、戦闘真っ只中のドンバス地方の２ヵ所だそうです。キーウ近郊からは耐火物などに使われるボールクレイが、ドンバスからはタイルの釉薬に使われるカオリンが採掘されていたとのこと。ともに欧州地域に向けての出荷が主だったそうですが、場所が場所、状況が状況だけに現在は生産を停止しているとのことでした。同業他社の鉱山も近くにあるようで、同様に苦慮されていると思います。

一刻も早く停戦となることを願うばかりです。

▶ホームページより

MARIのココロはひだまり

3年ぶり！有田陶器市は楽しかった！

サン・マリンデザインオフィスの友永です！

母、掘り出しものを物色中

私にとってゴールデンウィークと言ったら、「有田陶器市」。毎年４月29日～５月５日に開催されていますが、コロナの影響で今回は３年ぶりの開催でした。

４月30日（土）、前日の雨が嘘のような晴天。北九州に住む母と博多駅で待ち合わせし、特急ハウステンボス号に乗って上有田駅で下車。駅には検温所があり、検温後にチェック済みシールがもらえました。

娘へのお土産

ここから有田駅まで道路沿いにずら～と並んでいる陶器やさんや工房を歩いてみて回ります。ぶらぶらと歩いてお店を物色する、この感じ。やっぱり楽しい！

▶お土産に喜ばれる香蘭社のマグ

土曜日にしてはお客さんが少なかったように思います。よく新聞やニュースで観る、道路いっぱいに人がギュウギュウに溢れている感じではありませんでした。おかげでお買い物がしやすかったです♪

お店が多すぎるので、全てを見ていたら、いくら時間があっても足りません。そこで、ここ数年、同じお店に寄るばかりなのですが、「有田焼」と一口にいっても、お店によって個性が全然違うので、もっと色々な陶器を楽しみたい欲が出てきました、笑。

次回は渕野社長から教えてもらった「同時開催中の波佐見陶器まつりへも行く」「有田駅からで出ているシャトルバスを利用して今までに行ったことのない会場へ行く」「有田駅から上有田方向へ歩いてみる」など、楽しみ方を変えて、新しい陶器との出会いを探してみようと思います！

友永 真麗

今回、新しく迎え入れた器たち

全部1つ100円！

おにぎりだけでも素敵☆

お客さんと取り合いになった器

今回一番の大物

涼しげな器で冷麺♪

メロンも映える！

料理に「赤」がなくても器にあるので◎

会長さんの昔話 第29話

母の妹ツカは、嬉野に建てた新築の家に引っ越したあと、うちの工場では働きませんでした。出ていくころに父母とツカの間で何やら揉めたようです。今となっては事の仔細を知る由はありませんが、一生懸命働き、被災時には駆けつけ、私たちを支えてくれた二人には感謝しかありません。

ツカの子どもたちは高校を卒業するとみな就職しました。マユミは地元嬉野、ノリユキは広島、シュウジは福岡でそれぞれ働きます。マユミが嫁いだあとは夫婦だけで暮らし、この頃になるとツカはうちにも顔を出していました。

林田家に引き取られた隆は中学を卒業すると大阪の洋服を仕立てる会社に就職します。その後どうしたのか詳しくは知りませんが、そのまま大阪で家庭を持ちます。林田家は瓦の製造を行っていましたが廃業し実家はなくなります。

若い頃からツカにはいろいろあったものの、孫が生まれた頃からは平穏だったように思います。やがて月日が経ちツカ夫婦は年老いていきます。長男ノリユキがそんな両親を広島に呼び寄せます。平成10年ごろだったでしょうか、嬉しそうに旅立ったツカを覚えています。

しかし、長男たちと一緒に暮らし始めたものの上手くいかず、2～3年後にノリユキの家を出ます。このときすでに嬉野の家は売り払っており、次男がいる福岡で老夫婦二人アパート暮らしを始めます。取るものも取りあえず引っ越した住まいは2階の部屋で、建物には階段しかなく、足が不自由になっていた久雄にとっては不便だったようです。

その後、久雄は認知症が出てきたため施設に預けられ、平成19年に亡くなります。それからツカにも認知症が出始め、とうとう平成23年、波乱に満ちた生涯を閉じました。2人の晩年は寂しいものになってしまったように思います。

ツカが危篤状態になったとき、そのことを隆に伝えました。しかし、病院にも葬儀にも隆は現れませんでした。大阪に出たあと何があったのかはわかりませんが、実の親の死に駆けつけなかったことに何とも言えぬ悲しさを感じました。おわり

渕野義則

読者の皆さまからの感想をいただけるとても励みになります♪お気軽にどうぞ！

有限会社 渕野陶磁器原料
〒849-1426 佐賀県嬉野市塩田町大字五町田乙 287-1
TEL 0954-66-4207 / FAX 0954-66-3747 / E-mail info@fromform.jp
渕野 陶磁器
https://fromform.jp/

このニュースレターは、これまでご注文いただいた方、サンプルをお送りしました方、名刺交換をさせていただいた方など、ご縁がありましたみなさまにお送りしております。必要のない方は、たいへんお手数ですがその旨を上記までご連絡ください。